

二〇〇九年度 野球規則改正

(1) 一・〇一を次のように改める。(傍線部挿入)

野球は、囲いのある競技場で、監督が指揮する九人のプレーヤーから成る二つのチームの間で、一人ないし数人の審判員の権限のもとに、本規則に従って行なわれる競技である。

(2) 二・四六 LEAGUE PRESIDENT「リーグプレジデント」(リーグ会長)に次の【注】を追加する。

【注】我が国のプロ野球では、本規則のリーグ会長の職務はコミッショナーの指名した者によって遂行される。

(3) 四・〇五【原注】三行目に次の文(傍線部)を挿入する。

ここ数年、ほとんどのコーチが片足をコーチスボックスの外に出したり、ラインをまたいで立ったり、コーチスボックスのラインの外側に僅かに出ていることは、ありふれたことになっているが、コーチは、打球が自分を通過するまで、コーチスボックスを出て本塁寄りおよびフェア地域寄りに立っていない。ただし、相手チームの監督が異議を申し出ない限り……

(4) 六・〇五(h)【原注】七行目に傍線部を挿入する。

打撃用ヘルメットに、偶然、打球がフェア地域で当たるか、または送球が……

(5) 七・〇三本文を(a)として末尾に「ただし(b)項適用の場合を除く。」を挿入し、新たに次の(b)を追加する。

七・〇三(b) 打者が走者となったために進塁の義務が生じ、二人の走者が後位の走者が進むべき塁に触れている場合には、その塁を占有する権利は後位の走者に与えられているので、前位の走者は触球されるか、野手がボールを保持してその走者が進むべき塁に触ればアウトになる。

(6) 七・〇五(e)【注】を【b c d e 注】として次のように改める。

【b c d e 注】野手により、本項の行為がなされた場合の走者の進塁の起点は、野手が投

げたグラブ、本来の位置から離れた帽子、マスクその他が打球または送球に触れた瞬間とする

(7) 七・〇七【注三】を次のように改める。

七・〇七【注三】本条は、投手の投球が正規、不正規にかかわらず適用される。

(8) 七・〇九(e)に次の文(傍線部)を挿入する。

アウトになったばかりの打者または走者、あるいは得点したばかりの走者が、味方の走者に対する野手の次の行動を阻止するか、……

(9) 八・〇五ペナルティ【注一】末尾、次の文を削除する。

なお、“その他”には捕手またはその他の野手の打撃妨害を含まない。

(10) 一〇・〇一(a)に次の【注】を追加する。

【注】我が国のプロ野球では、リーグ会長の職務はコミッショナーの指名した者によって遂行される。

(11) 一〇・二〇【注】を削除する。

(12) 一〇・二二(a) (c)の各【注】を削除し、次の【一〇・二二注】を追加する。

【一〇・二二注】 我が国のプロ野球では、“組まれている試合総数”を“行なった試合数”に置きかえて適用する。数の算出にあたり、端数は本条(a)(b)各【原注】に準ずる。

(13) 巻頭6ページ、ストライクゾーンのイラストを変更する。

二〇〇九年一月二十九日

以上

二〇〇九年度 野球規則改正説明

(1) 一・〇一を次のように改める。(傍線部挿入)

野球は、囲いのある競技場で、監督が指揮する九人のプレーヤーから成る二つのチームの間で、一人ないし数人の審判員の権限のもとに、本規則に従って行なわれる競技である。

説明 審判員の地位を明らかにするため、原本傍線部「Under jurisdiction of one or more umpires」を挿入した。

(2) 二・四六 LEAGUE PRESIDENT「リーグプレジデント」(リーグ会長)に次の【注】を追加する。

【注】我が国のプロ野球では、本規則のリーグ会長の職務はコミッショナーの指名した者によって遂行される。

説明 我が国プロ野球の組織の変更によって両リーグ会長不在となったため本条文を追加した。

(3) 四・〇五【原注】三行目に次の文(傍線部)を挿入する。

ここ数年、ほとんどのコーチが片足をコーチスボックスの外に出したり、ラインをまたいで立ったり、コーチスボックスのラインの外側に僅かに出ていることは、ありふれたことになっているが、コーチスは、打球が自分を通過するまで、コーチスボックスを出て本塁寄りおよびフェア地域寄りに立ってはいはならない。ただし、相手チームの監督が異議を申し出ない限り……。

説明 ベースコーチが打球に当たる危険を防止する目的から条文に挿入した。

(4) 六・〇五(b)【原注】七行目に(傍線部)を挿入する。

【打撃用ヘルメットに、偶然、打球がフェア地域で当たるか、または送球が……

説明 打撃用ヘルメットに打球がフェア地域で当たった場合が明示してなかったため加えられた。

(5) 七・〇三本文を(a)として末尾に「ただし(b)項適用の場合を除く。」を挿入し、新たに次の(b)を追加する。

七・〇三(b) 打者が走者となったために進塁の義務が生じ、二人の走者が後位の走者が進むべき塁に触れている場合には、その塁を占有する権利は後位の走者に与えられているので、前位の走者は触球されるか、野手がボールを保持してその走者が進むべき塁に触ればアウトになる。

説明 同一塁に二走者が触れている場合、通常後位の走者が触球されればアウトとなるが、後位の走者がフォースの状態となっている塁に二走者が触れている場合は、前位の走者がアウトとなることの説明として追加された。

(6) 七・〇五(e)【注】を「b c d e注」として次のように改める。

【b c d e注】野手により、本項の行為がなされた場合の走者の進塁の起点は、野手が投げたグラブ、本来の位置から離れた帽子、マスクその他が打球または送球に触れた瞬間とする。

説明 守備者が七・〇五(b・c・d・e)に該当する行為を行ったとき走者の進塁基準を定める説明である。

打球の際に関しては七・〇五(j)に記載されている

(7) 七・〇七【注三】を次のように改める。

七・〇七【注三】本条は、投手の打球が正規、不正規にかかわらず適用される。

説明 七・〇七「三塁走者が、スクイズまたは盗塁によって得点しようと試みた場合、捕手またはその他の野手がボールを持たないで、本塁の上または前方に出るか、あるいは打者のバットに触れたときには、投手にボールを課して、打者はインターフェアによって一塁が与えられる。この際はボールデッドとなる。」

二〇〇八年まで七・〇七【注三】に記載されていた投手が不正規打球をした際の規則適用の特例を改め、すべて同じ扱いをするものとし、走者のみならず打者も打撃妨害により一塁が与えられることで七・〇七に関する適用を一本化した

(8) 七・〇九(e)に次の文(傍線部)を挿入する。

アウトになつたばかりの打者または走者、あるいは得点したばかりの走者が、味方の走者に対する野手の次の行動を阻止するか、……

説明 傍線部の文が追加された。

(9) 八・〇五ペナルティ【注一】末尾、次の文を削除する。

なお、「その他」には捕手またはその他の野手の打撃妨害を含まない。

説明 七・〇七【注三】の改正により八・〇五ペナルティ【注一】末尾の文を抹消した。

(10) 一〇・〇一(a)に次の【注】を追加する。

【注】我が国のプロ野球では、リーグ会長の職務はコミッショナーの指名した者によって遂行される。

(11) 一〇・二〇【注】を削除する。

(12) 一〇・二二(a)と(c)の各【注】を削除し、次の「一〇・二二注」を追加する。

【一〇・二二注】 我が国のプロ野球では、「組まれている試合総数」を「行なつた試合数」に置きかえて適用する。数の算出にあたり、端数は本条(a)(b)各【原注】に準ずる。

(13) 巻頭6ページ、ストライクゾーンのイラストを変更する。

説明 アマチュア野球でストライクゾーンを規則書通りに適用することからイラストを打者が打撃姿勢に入ったときの形に変更する。

二〇〇九年一月二十九日

以上

2009年度規則改正について

1. 01 一人ないし数人の審判員の権限のもとに
2. 74 ストライクゾーン アマ内規の廃止
4. 05 (b) [原注] 以下を追加する。
コーチは、打球が自分を通過するまで、コーチスポックスを出て本塁寄りおよびフェア地域寄りに立って
いてはいけない。ただし、・・・
 *なお、アマチュア野球では今年からコーチのヘルメット着用を義務付ける。
6. 05 (h) [原注] 以下の通り一部修正する。
 打撃用ヘルメットに、偶然、打球がフェア地域で
当たるか、または送球が当たったときはボールイン
プレイの状態が続く。
7. 03 (b) 以下を追加する。
(b) 打者が走者となったために進塁の義務が生
じ、二人の走者が後位の走者が進むべき塁に触れて
いる場合には、その塁を占有する権利は後位の走者
に与えられているので前位の走者は触球されるか、
野手がボールを保持してその走者の進むべき塁に触
れればアウトになる。
7. 05 (e) [注] を [b c d e注] として以下のとおり改める。
野手により、本項の行為がなされた場合の走者の進塁
の起点は、野手が投げたグラブ、本来の位置から離し
た帽子、マスクその他が打球または送球に触れた瞬間
とする。
7. 09 (e) 以下を追加する。
 (e) アウトになったばかりの打者または走者、
 あるいは得点したばかりの走者が、・・・

規則適用上の解釈について

7. 07 [注三] 「本条は、投手の正規の投球に基づいたときだけに適用

される。」とあるが、正規の投球に限らず、不正規の投球も含めることにする。

8. 05原注 [注一] 「なお、” その他” には捕手またはその他の野手の打撃妨害を含まない。」とあるが、打撃妨害も含むと解釈を改め、なお以下を削除する。
7. 05 (b) (c) (d) (e) (j) 野手がグラブ等を打球または送球に投げつけて当たった場合の進塁基準について、次の通り統一解釈をとる。
7. 05 b、c 打球に触れたときの走者の位置を基準に3個の塁
7. 05 d、e 送球に触れたときの走者の位置を基準に2個の塁
7. 05 j 投球に触れたときの走者の位置を基準に1個の塁

その他アマチュア関連について

1. 打者、走者とも両耳ヘルメットの着用義務 (安全対策)
2. 「ミットを動かすな」キャンペーンの実施
ボールをストライクに見せようとして捕手がミットを動かす行為はアンフェアかつ審判員に対する侮辱行為に当たることから禁止する。

併せて、ボールと宣告され、これみよがしに捕手がミットをしばらく捕った位置に置いておく行為もやめさせる。(いずれもマナーアップの面)

社会人野球内規等の変更

(1) 社会人野球申し合わせ事項の変更

社会人野球取決め事項を廃止し、社会人野球申し合わせ事項に統合する。

1.4	<u>塁上の走者およびランナースコッチャーが捕手または守備側のサインを盗み、打者に知らせる行為は、アンフェアであることから禁止する。</u>
1.7	<u>内野手のボール回しを認める。(一回りのみ) ただし、試合時間が極端に長引くことが予想される場合には、球審の判断で途中からボール回しを禁止する場合もある。</u>
1.8	<u>打者交代時、監督から球審への手法の簡素化を認める。(当該打者の背番号を見せ</u>

る等)

(2) 社会人野球内規の変更

	現 行	改 訂
3	打者および走者は、必ず耳フラップのついた野球用ヘルメットを着用しなければならない。(1. 16) [社]	ヘルメットの着用について (1) ベースコーチは、攻撃期間中、コーチスボックス内においてヘルメット(耳フラップなしでも構わない)を着用しなければならない。 (2) 攻撃期間中、打者および塁上の走者は両耳フラップヘルメットを着用しなければならない。ただし、社会人野球の場合、1年間の経過措置を置き、2010年度から完全実施とする。なお、都市対抗野球大会および日本選手権大会の本大会については、2009年度から先行実施する。
14	③野手(捕手を含む)が一試合(9イニングス)に投手のもとへ行ける回数を二度まで(監督またはコーチで行った場合を除く)とし、三度目以降は行くことは許されない。なお、延長回に入った場合は、それ以前の回数に関係なく、3イニングスにつき一度だけ行くことが許される。 以下略	③内野手(捕手を除く)が投手のもとへ行ける回数を1イニングにつき一人だけ1回とする。 野手(捕手を除く)が投手のもとへ行つた回数を数えるにあたっては、・・・ 監督またはコーチがマウンドに行ったときも、一人の内野手だけ(捕手を除く)がマウンドに行くことが許され、そしてそれは内野手がマウンドに行った回数1回とみなされる。
15		一試合につき攻撃側の話し合いを3回まで認める。攻撃側の話し合いは、監督が打者、走者、打席に向かう次打者またはコーチと話し合うためにタイムをとって試合が遅れる場合にカウントされる。なお、延長回に入った場合は、それ以前の回数に関係なく、3イニングスにつき1回の話し合

		いが認められる。ただし、攻撃側の責めがないタイム中（例えば、守備側がマウンドに集まっているとき、選手が負傷したとき、選手交代のときなど）に話し合いを持っても、さらに遅延を招かない限り、回数にはカウントされない。
17	ストライクゾーンの下限に関しては、ボールの全部がひざ頭の下部のラインより上方を通過したものとする。 (2.74) [アマ]	削除

補足説明：上記内規14③の「内野手がマウンドに行ける回数」について

- (1) 従来と異なり、監督がマウンドに行ったときも含めて、マウンドに内野手全員が集まることはできなくなった。
- (2) 監督がマウンドに行ったときも内野手一人だけが許され、しかも内野手1回の回数にカウントされる。
- (3) 捕手がマウンドに行くことについては制限はないが、それが頻繁に行われ、試合の遅延になると審判員が判断した場合には、タイムをとってマウンドに行くことを認めないこともある。
- (4) 監督またはコーチが捕手を呼び、その直後に捕手がマウンドに行けば、それは監督またはコーチがマウンドに行ったとみなされ、回数にカウントされる。

(3) スピードアップ・マナーアップ要綱の変更

(スピードアップ)

3) 内野手 内野手（捕手を除く）は1イニングに1回一人だけ投手のところに行くことが許される。

4) 攻撃タイム 攻撃側は9イニングに3回の作戦タイムをとることができる。

以下順次繰下げ

(マナーアップ)

1) ミットの移動 捕手が投球を受けたときボールの球をストライクに見せる意図でミットを動かすことを禁止する。

以下順次繰下げ

以上